

公開パネル討論 「今やる、放射線教育」

— 支援ネットワーク構築へ向けて —

去る 2013 年 7 月 5 日に放射線教育について、パネル討論「北から南から福島を踏まえた放射線教育の全国展開」*が開催されました。全国から招聘した 5 人の先生方による実践報告では、近隣の大学や専門家の支援が重要な役割を果たしていることが紹介されました。一方、限られた時間数での授業内容の選択や実験機材などの調達の課題も示されました。

今回のパネル討論では、前回の討論を踏まえて、限られた時間の中でいかに有効な授業を実施するべきか、小学校、中学校、高校教育の連携、各学年での扱い、外部支援のあり方などを討論し、放射線教育の今後の進め方を検討することが目的です。

*日本アイソトープ協会主催の第 50 回アイソトープ・放射線研究発表会の催し

日時 : 2013 年 11 月 10 日 (日) 13:30~17:00

会場 : 東京慈恵会医科大学高木 2 号館地下 1 階南講堂

親睦会 : 東京慈恵会医科大学中央棟 8 階会議室 17:30-19:00

参加費 : 公開パネル討論無料 資料代として 500 円

親睦会費 : 1,500 円

参加申込 : 参加申込要領に従ってください (募集人数 100 名、先着順)

主催 : NPO 法人放射線教育フォーラム

協催 : 東京慈恵会医科大学 アイソトープ実験研究施設

プログラム

13:00 受付開始

13:30 主催者挨拶

13:40 実践報告 (5 名、80 分)

1. 宗像 克典 先生 (福島県西白河郡中島村立吉子川小学校教頭)
「福島県における小中学校連携の放射線授業の試み」
2. 原田 忠則 先生 (広島市立江波中学校)
「広島の中学校理科における放射線教育のカリキュラム」
3. 前田 勝弘 先生 (長崎市立小ヶ倉中学校)
「長崎の小中学校における放射線教育」
4. 畠山 正恒 先生 (神奈川県聖光学院中学・高等学校)
「日本の理科教育に欠けているもの — 私は放射線をどのように教えているか」
5. 平田 文夫 先生 (北海道エネルギー環境教育研究会総括幹事)
「教育課程に位置付けられたエネルギー環境教育パッケージプログラム — 小中学校での放射線教育の定着及び浸透を図る — 」

座長：宮川 俊晴（放射線教育フォーラム/日本原燃）

（休憩 10分）

15:10 講演（60分）

宇野 賀津子 先生（ルイ・パストゥール医学研究センター）

「低線量放射線の生体への影響と食の重要性」

がんの抑制に免疫機能が重要であることはがん治療においては定説になっていません。「低線量放射線の影響を、過少に言うも、過大に言うも、不正義！」と語る免疫学がご専門の宇野賀津子博士が、がんの成り立ちから、がんを抑制する機構について解説し、食べ物や生活の視点を含めて、実験を交え分かりやすくお話しします。

（休憩 10分）

16:20 パネル討論（40分）

実践報告者、講演者及び会場からの発言者を交えて討論

コーディネータ：高島 勇二 先生（全日本中学校理科教育研究会前会長、練馬区立開進第一中学校校長）

中学校の放射線授業内容を中心に、学校・学年毎にどのような内容を実施することが有効か、外部支援としてどのような取り組みが効果的か、などについて討論します。低線量放射線の影響についても取り扱います。

17:00 閉会

17:30 懇親会 東京慈恵会医科大学中央棟 8階会議室